



特集

# 城南島 リサイクルセンター 稼働!

～リサイクル施設を通じて循環型社会の発展に貢献～

2020年東京五輪関連等の建設需要の増加を見据え、コンクリート廃材・アスファルト廃材の中間処理などを行う城南島リサイクルセンター（以下城南島工場）が2015年4月に開業しました。既存の東京青海合材工場・東京臨海リサイクルセンター（以下青海工場）から5キロほど離れた多くの廃棄物処理・リサイクル施設が林立するエリアに位置し、主にコンクリート廃材の中間処理を行っています。

城南島工場は、破碎設備や受入材および製品のストックヤードをすべて屋内に設置することで、安定した

品質を確保すると同時に、地域への粉じん・騒音・振動を抑制し、環境にも配慮しています。また磁選機、ゴミ取り装置の設置によって、人力作業を削減するなど安全対策にも万全を期しています。

一方、青海工場では、コンクリート事業を城南島工場に移し、主にアスファルト事業で顧客のニーズに対応しています。

両工場が機能分担を図り、相互補完的な連携を取りながら、今後の建設需要に応じていきます。

## リサイクルプラント処理フロー図



## 城南島リサイクルセンター 概要

所在地	東京都大田区城南島3丁目3-1
面積	土地：8824㎡ 建物：6489㎡
設備	事務所：破碎設備 (Co As) サテライト合材サイロ
容量	破碎能力：Coガラ 250t/h Asガラ 80t/h 合材サイロ：約80t 再生砕石：3900㎡





## Interview

# 常時、受け入れと出荷のバランスを良くすることが課題

—今年度より城南島リサイクルセンターが本開業となりましたが、開業前に活動していたことがあればお聞かせください。

平成27年2月1日仮開業し、4月2日の開所式をもって正式に開業しました。初春の開業に向け、昨年の夏頃から知名度を上げるよう得意先訪問を始めました。

—東京青海合材工場との連携についてお聞かせください。

今までは青海工場の中間処理が追いつかず、青海工場周辺に交通渋滞を起こしてしまうことが多々ありましたが、城南島工場は青海工場からほど近く、開業したことによって、青海工場とのやりくりで、交通渋滞を緩和することができます。青海工場と城南島工場は車の両輪であり、連携を図りながら、よりお客様の利便性を向上させていくつもりです。

—工場長としてどのような運営方針をお持ちですか。

城南島工場は産業廃棄物処分量の許認可工場であり、法令を遵守し適正な処理をすることを第一義としています。法令違反は企業の信頼を瞬く間に失墜させてしまうので、職員には法令遵守をことあるごとに説いています。また、お客様あつての工場ですので、受付の

社員にはいつも笑顔でいるようお願いしています。そのためということではありませんが、何でも話し合えるような風通し良い職場づくりを意識しています。職場でコミュニケーションがうまく取れていないと笑顔も辛いでしょうから(笑)。

—新設の工場ということでご苦労なさっていること、また、課題などがありましたらお聞かせください。

苦労かどうかわかりませんが、先ほど申し上げました通り、まず、知名度を上げるために、また、すぐにお客様のニーズを察知できるように一日の大半をお客様回りに充てています。都内は移動に時間がかかるので一日7件程度が限界ですが。

城南島工場は製品の材料となる廃材を受け入れて、それを製品化し出荷するという業務の流れです。廃材受け入れと製品出荷のバランスが悪いと、ある時は受け入れ不能、ある時は製品化に支障をきたすこともあり得ます。青海工場との連携で回避はできますが、効率良く工場運営するためにも、常時、受け入れと出荷をバランス良くすることが課題です。そのためにも営業活動をしっかりやっていきます。

—最後に抱負をお聞かせください。

これから増えると予想される五輪需要に向けて対応できる体制は整えています。青海工場と連携して、お客様のニーズに臨機応変に対応できる工場にしていきたいです。



城南島リサイクルセンター  
工場長

千原 若男